

平成26年11月

佛乗寺檀信徒の皆さまへ

佛乗寺 住職 笠原 建道
講頭 廣田 正至

本年も宗祖日蓮大聖人様の御会式を盛大に奉修することができました。佛乗寺檀信徒の皆さまの御信心が表れたものと敬意を表するものです。

御会式は日蓮正宗にとって最も大切な法要です。この法要を盛大に執り行うことができるのは住職としても有り難く嬉しいことです。

さて、大聖人様のお手紙の中に『一生成仏抄』と名付けられたものがあります。これは房州に住んでいた富木常忍という武士の信徒に与えられたもので、名前の通り南無妙法蓮華經の御題目を唱えることにより、一生の間に仏に成ることが叶う、と教えて下さるものです。

この御文の一節に

衆生しゅじょうの心(穢)けがるれば土もけがれ、心清ければ土も清しとて、浄土じょうどと云ひ穢土えどと云ふも土へだに二つの隔ただわれてなし。只我等が心の善悪ぜんあくによると見えたり

(御書・46頁)

とあります。

御文の「衆生」とは梵語では sattva (薩?) といひます。広くいえば感情や意識を持つすべての生き物のことです。狭い方では、悩み苦しみ、迷いの中にある私たち人間のことをいひます。また、「土」とは国土のことです。私たちが住んでいる環境を「土」と教えて下さっておりませぬ。また「浄土」は清浄な国土の意で、次の「穢土」とは穢れた国土のことです。

その上でこの御文を拝しますと、私たちの心が穢れると周囲の環境も穢れ、私たちの心が清ければ周囲の環境も清いものとなる、とされるのです。また、清浄な国土と穢れた国土の二つがあるのではなく、それは私たちの心の中にある「善と悪」が表れたものである、とされます。

「あの人は私を目の敵にして嫌な人」、「どうしてこのような仕事をしなくてはならないの」、「家の子は遊んでばかりで少しも勉強をしない」、「正しいのは私、悪いのはあの人」等々。人間であれば不平不満のない人はいないでしょう。良いことは自分の手柄、悪いのは人のせい、というのが私たち凡夫の有り様です。

そのような凡夫の心から、仏様のお心に少しでも近づくために、自らの心を浄化すれば住みよい世の中に変えることが叶うのです、と大聖人様は教えて下さるのです。言い換えれば、私の小さな心であっても、南無妙法蓮華經の信によって周囲を変えることができる、とのお言葉です。

自らがおかれている環境を、良くも悪くもすることができる私たちの心は偉大である、と示される大聖人様の御言葉を忘れないようにしたいものです。

立冬も過ぎ本格的な寒さがおとずれます。風邪など召されぬよう御自愛をお祈り申し上げます。

以上